



### 9/17 競泳終了 今年の2倍 62得点をたたき出す！

敦賀での3日間の熱い戦いが終わった。17日は、少年男子B100m平泳ぎで後藤旭登選手(上智福岡高校)が4位、少年男子A4×100mメドレーリレー(酒井陽向・平河楓・藤原育大・中杉勇斗)で5位、宮崎菜々子選手(筑陽学園)が6位に入賞するなど、本県選手団の活躍が続いた。

競泳での競技得点は、合計62点となり、昨年度の愛媛国体の2倍となる活躍であった。

この活躍の要因について、県水泳連盟のスタッフは、

- ① 直前の強化合宿におけるスタッフ・選手ともにモチベーションを高める効果的な指導
- ② 指導スタッフの指導技術の高さ

の2点を挙げた。

①について、ここ数年、国体に対する「モチベーション」に対し、戦略的な取り組みが不足していた。そのため、今年の合宿では、「県代表としてのプライド」や「数年落ち込んでいる福岡県水泳界への貢献」などをキーワードに、多くの指導スタッフ並びに選手とともに、繰り返しミーティングを重ねた。中には、そのプレッシャーに滅入った選手も出てきたとのこと。それでも、今回の国体メンバーたちは、これらの目標を受けとめ、インターハイや各種大会後も、モチベーションを高め、国体に挑む体制をつくり、福井の地に乗り込んだ。

②については、今回の指導者の方々の「熱い想い」が結果に結びついた。日頃、自身が指導するスイミングクラブの選手ではない国体選手を指導することにに対し、今回の指導スタッフは、強化合宿中、何度も繰り返し丁寧なアドバイスを一人一人に送り続けた。

このように組織的な取り組みを行ってきた県水泳連盟の粘り強さは、本県の目指す国体での8位入賞や、さらには競技力の向上に対する成果にも繋がっていくであろう。

来年度の国体における競泳陣の活躍も期待するが、鈴木聡美選手や酒井聖人選手とともに、酒井陽向選手や石原愛依選手などが『東京の舞台』に立つことで、「競泳FUKUOKA」のさらなる発展につながるものとする。

#### 競泳競技得点順位一覧

順位	都道府県名	競技得点
1	東京	367.5
2	神奈川	269.0
3	埼玉	214.0
4	大阪	191.5
5	愛知	162.0
6	兵庫	122.5
7	千葉	112.5
8	静岡	91.5
9	石川	82.0
10	京都	79.0
11	鹿児島	65.0
12	福岡	62.0
14	茨城	61.0
26	北海道	20.0

水色は、昨年度の解団式で示したライバル県



【表彰式での後藤選手(右)】



【スタート前の中杉選手】

国体の情報については、大会ホームページ (<http://fukui2018.pref.fukui.lg.jp/>) より、ご覧ください。  
※Facebookにおいても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係



## FUKUOKA NEWS

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュース

9月18日 Vol. 6

### 会期前競技最終日・その2

## 9/17 クレー射撃「スキート」4位入賞!

クレー射撃競技得点順位一覧

勝山市で行われていたクレー射撃競技の全日程(5日間)が終了した。

本県は、スキート種目で4位(247点)、トラップ種目で24位(238点)となり、競技得点獲得は、埼玉国体以来、14年ぶりの入賞となった。また、競技別天皇杯順位も7位となり、今後も継続的に上位入賞が期待できる。

スキート種目は、クレー標的が射手の左右から交互または同時に飛び出し、射手は1枚の標的に対し1発だけしか撃てないルールとなっている。心理面での影響が左右される競技であり、驚異的な集中力が大きな影響を及ぼす。

国体では、3人でチームを組み、1人が4~5日間をかけ、4ラウンドで計100発を撃つ(1ラウンド25発)。本県スキート種目チームは、杉田英雄選手((株)ヤキシタ)が91点、吉田渉選手(玉名鉄砲火薬店)が82点、武丸正憲選手(武丸工務店)が74点であった。杉田選手の91点は、今大会スキート種目出場選手中トップとなる記録であった。

来月末には、福岡県立総合射撃場において「全日本クレー射撃選手権大会」が開催される。この選手権への出場権を得ている杉田選手が活躍すれば、2020東京オリンピックへの夢も現実味を帯びてくる。杉田選手のように、国体を契機とし、「世界」の扉を切り開いていく選手が現れてくることは、福岡県としても誇りであり、次世代への希望となることは間違いない。今後も、杉田選手の活躍に目が離せない。

順位	都道府県名	競技得点
1	岡山	36.0
2	東京	24.0
3	群馬	21.0
3	岐阜	21.0
5	和歌山	18.0
5	福井	18.0
7	福岡	15.0
7	奈良	15.0
16	北海道	3.0
16	千葉	0.0
16	神奈川	0.0
16	茨城	0.0

【水色は、昨年度の解団式で示したライバル県】



【表彰を手にする射撃チーム】  
前から吉田、杉田、武丸選手

## 9/17 吉澤選手12位(高飛込)

入賞を狙い、高飛込に臨んだ吉澤勇馬選手。奮闘するも12位という結果で大会を終了した。

試合後、竹川監督は、「昨日と同じく入水でうまく決まらなかった部分が点数に結びつかなかった。しかし、入水するまでの技術面は、昨年から、かなり成長している。今年の冬は、更に練習を重ね、来年の茨城国体で必ず入賞してくれるはず」とコメントを残した。

成年種別として初出場し、多くの収穫を得た今回の経験は、茨城国体での巻き返しにつながることを信じている。  
頑張れ吉澤選手!



【竹川監督と吉澤選手】

## 会期前競技が終了 現在11位

天皇杯順位一覧

前回大会(第72回大会)の会期前競技終了時は、16位(217点)であった福岡県。

今大会(第73回大会)では、現在、順位を11位とし、本大会に向け幸先良いスタートとなった。

この会期前競技に出場したクレー射撃チームや競泳チームの活躍は、自転車競技を皮切りに始まる本国体を控える選手や監督にとって、大きな追い風となるであろう。

順位	都道府県名	競技得点
1	東京	688.5
2	長野	528.0
3	北海道	495.0
4	神奈川	477.5
5	埼玉	425.0
6	愛知	380.0
7	大阪	366.0
8	福井	309.5
9	兵庫	288.0
10	新潟	282.0
11	福岡	250.5
14	千葉	218.5
24	茨城	159.0

\* 9月17日終了時点のもの

\* 水色は、昨年度の解団式で示したライバル県